

## 2023年度青年農業者交流会報告

- (1)11月9日・10日(木・金)で、19会員産地34名、オブザーバー1産地6名 消費者幹事2名、パルシステム関係者4名、総勢46名が参加し2023年度青年農業者交流会が開催されました。
- (2)1日目の全体会は山梨県立図書館2階多目的ルームにて山梨県総合農業技術センター研究管理幹の長坂克彦氏をお招きし、地球沸騰化時代の持続可能な農業の取り組みをテーマに、農業から発生する温室効果ガスと削減方法、二酸化炭素を土壌に閉じ込める(土壌炭素貯留)の取り組みについて質疑を交えてお話をいただきました。
- (3)全体会では7つのグループに分かれて、自己紹介およびアイスブレイク後、就農のきっかけ・今夏の影響についての共有と、講演を受けて参加産地の情報交換や課題共有が行われました。
- (4)2日目はあいにくの雨となりましたが、山梨県の4パーミルイニシアチブ認証をワイナリーで初めて取得したドメヌヒデを視察し、栽培園地の視察、選定枝の炭素貯留方法、ぶどう搾りかすの小型の堆肥小屋見学を行いました。その後、南アルプス市楡形生涯学習センターに会場を移し、ドメヌヒデを主宰する渋谷英雄氏によるワイナリーでの取り組みとして、月齢に従った栽培及び収穫、酸化防止剤不使用もしくは最小限による最小限の工業化による生産など、自然派ワインづくりへのこだわりについて、質疑を交えてお話をいただきました。講演後、2グループに分かれ、古民家を活用したクラウドファンディングによる地域活性の取り組みとして「カフェ月晴れる」の視察、ワイナリーにて収穫後のワインづくりの行程などについてお話を伺いました。
- (5)今回の青年農業者交流会の特徴として、例年に比べ参加人数は少ないものの、新規参加者や数年ぶりに参加する方の割合が多く、新旧の参加者間での交流が深められた2日間となりました。次年度は会員生協別の開催を含む消費地開催となります。

以上

	
長坂 克彦氏による講演の様子	講演後には多くの質疑が交わされました
	
1日目全体会の様子	剪定枝の炭化による炭素貯留視察の様子